

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表 2023年度

法人名	長野県高齢者生活協同組合	代表者	田中 夏子	法人・事業所の特徴	「ひとりぼっちにならないしない」をスローガンに、誰もが安心して暮らせる地域を作る協同組合です。みんなの家下條は、一人ひとりと手と心をつなぎ想いを大切にす る介護を目指しています。それぞれのできることをやりたいことを中心に、その人らしい生活を送る為の支援を行います。
事業所名	みんなの家下條	管理者	百瀬 拓郎		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	4人	1人	2人	1人	人	4人	人	14人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職であることと合わせて、人間力を養うことも大切にしている。そのための研修会の実施や、日常業務におけるマネジメントやコミュニケーションの強化を意識的に行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・常日頃から深く考えながら仕事をされていることに感心した。 ・介護の仕事は誰にでもできる事では無く、厳しい仕事だと思ふ。 ・日常や運営推進会議での意見を活かそうとする姿勢が伝わる。 ・一人ひとりが真面目に仕事に取り組まれている様子が分かる ・色々な勤務シフトがあると聞くが、職員同士が連携できている。 ・毎月の学習がきちんと行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員一人ひとりの細かい様子は分からないが、皆さんが誠実に取り組む様子が伺える ・評価の基準が分かり難い。職員の皆さん一生懸命働かれている。 ・計画作成だけでもたいへんだと思う。様子を簡素化してもいいのでは無いか。 ・計画のポイントが分かりやすく整理されている。大切なことは毎年同じ様な計画になるのは仕方ないと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画・実践・振り返り・改善が日々の会議やミーティングで実施できる体制を整え、職員一人ひとりの目標、実施の様子、ステップアップの状況が明確にできる様な運営体制を構築します。 ・毎年（年2回）行う個別の育成面談を有意義な機会とするため、面談者自信のコミュニケーション能力も上げていきます。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の社会資源であることにこだわり、誰もが訪問しやすい雰囲気づくり（清掃や植栽）を行います。また、コロナ禍前の状況に戻していくため、地域ボランティアや関係機関との交流を積極的に行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関先の花壇が素敵。きっと利用される方も喜ばれていると思う。 ・窓際の棚や畳の部屋が雑然としている。以前はもっと整理整頓されていた。 ・コロナ対応が気になっていたが、定期的に換気されたり消毒されていると聞き安心。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いつも清潔にされている。ただ、掲示物（飾り物）が多すぎると感じる。 ・花壇の手入れはたいへんだと思うが続けていただきたい。とても明るい雰囲気になる。 ・道路側に垣根があるため閉鎖的に映ってしまう。色合いも暗い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策としての換気や消毒を確実に実施します。 ・気軽に立ち寄れる雰囲気づくり（植栽や清掃等）や図書館（分館）の活用などにより、気軽に立ち寄れる場所づくりを行います。 ・日常の整理整頓については、職員全員が確実にできる仕組みづくりを行います。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの活動は地域との良好な関係があって初めて成立することを自覚し、日常における関係づくりは元より、開設以来続けている地域行事の企画や参加を継続していきます。合わせて今年度においては、 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や対応はいつも丁寧で心地よい。みなさん笑顔で挨拶される。 ・知名度は広がってきたが、どんな事をしている所か、意外と知らない人が多い。 ・地域のイベントに参加されている 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談するには敷居が高く感じる。 ・必要にならないと相談に行かない。相談に行くときは役場に行くと思う。 ・地域の行事に出向くことも大切だが、事業所に立ち寄ってもらいた 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事やイベントへの参加は引き続き行うが、より事業所のことを知っていただける機会とできる様な演出を行います。

	<p>地域に出ていく取り組みだけでなく、地域の方を招き入れる仕掛けづくりを進めていきます。具体的には、介護相談会、学習会、趣味の教室等の企画を検討・実施します。</p>	<p>る様子は伝わる。ただ、事業所がどんなところかを知る機会には出来ていない様に思う。もっと宣伝してもいいのではないかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回ニュースを楽しみに読んでいる。よく続くと感心する。 	<p>めの企画を組んでもらいたい。なかなか気軽に…とはいかないかな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍以降疎遠になっていた保育所やボランティアとの関係を再構築して行きます。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・職員を中心に参加している地域行事などについて、利用者も一緒に参加できる方法を検討・実施します。また、定番の季節行事だけでなく、送迎時などの日常の時間を活かした取り組みも進めていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は地域行事に参加している様ですが、利用者も一緒に参加させてあげると喜ばれると思います。大変だと思いますが検討してください。 ・何かお手伝いが出来ればいいが、どんなお手伝いができるか分からない。事業所から具体的に提案してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・せっかくグループホームが出来たのだから、一緒に出来る事を考えてはどうか。 ・ニュースで送迎時の事故の話を耳にします。外出時は利用者さんの安全確保にも努めてほしい。 ・個人情報にも気を付か合わなければいけない世の中なので、連携も難しいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に外出の機会を設けます。季節行事だけでは無く、送迎時などの機会も活かした取り組みを進めて行きます。 ・利用者さんの在宅生活を支援するため、地域の方にも運営推進会議に参加していただける様に働きかけを行います。
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・一方通行の報告会議にならない様に、皆さんが意見を出せる様な、参加型の会議を目指します。また、参加者についても、現在ご参加いただいている方意外にも、地域で活躍される色々な分野の方々にも参加を積極的に促します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所中心の情報共有になっているので、もっと地域のこと話合う機会が必要かも。 ・会議の目的を十分に理解できていないためか、どんな発言をすればいいのか、会議で出された意見がどう活かされるのかが分からない。 ・運営推進会議が役に立っているのか疑心暗鬼。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々業務でたいへんな事業所に求めすぎるのも可哀想だと思う。 ・参加者は増えて来たが、顔ぶれは固定化されてきた。もっと色々な人に関心をもって欲しい。 ・ご家族の参加が増えると良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議の参加者や進め方の見直しを行い、有意義な会議運営を目指します。具体的には、既存の参加者に加え、村議員さんや、居宅、医療系の専門職への参加の働きかけを行います。
F. 事業所の防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き定期訓練の充実を図ります。さらに、近隣の住人や派出所等の方と連携しての訓練を企画し、いざと言う時のための避難手順などの確認を進めます。 ・BCPについては、定期的な見直しと職員学習を実施します。 ・建物内の避難路について、障害物等が無いかな定期的に検査を実施します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地震への備えも大切。非常食などの備えも確実に進めてほしい。 ・火災のときはスプリンクラーが機能すれば安心だが、地震のときは職員さん頼みになる。日頃からの防災意識を高めてほしい。 ・玄関や廊下（避難路）に障害物が無く整理されている。しっかり意識を持たれていることが分かります。 ・年に一回くらい町内会に参加して欲しいとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・村のハザードマップを活かしてほしい。事業所の場所は問題無いと思うが、利用者さん宅は危険な場所もあるのでは無いかなと思う。 ・行政やご近所との連携を具体的にしておく必要があると思う。運営推進会議にも参加してもらってはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・火災への備えについては、年2回の避難訓練の充実（消防署職員の参加、消火訓練）と地域の方にも参加して頂いての訓練を実施します。 ・地震への備えについては、備蓄品の点検・補充と、系列事業所の北又の杜との連携の在り方を模索し、非常時の対応マニュアルを再整備します。